

平成30年度
千葉県

袖ヶ浦市内遺跡発掘調査報告書

宮ノ後遺跡第3次調査
中六遺跡第24次調査
向山野遺跡第10・11次調査・真里場古墳群第5・6次調査
堂庭山B遺跡第2次調査
堂庭山B遺跡第3次調査
二ノ山遺跡

平成31年3月
袖ヶ浦市教育委員会

平成 30 年度

千葉県

袖ヶ浦市内遺跡発掘調査報告書

みやのうしろ

宮ノ後遺跡第 3 次調査

ちゅうろ

中六遺跡第 24 次調査

むけざんや

向山野遺跡第 10・11 次調査・真里場古墳群第 5・6 次調査

どうにわやま

堂庭山 B 遺跡第 2 次調査

どうにわやま

堂庭山 B 遺跡第 3 次調査

にのやま

二ノ山遺跡

平成 31 年 3 月

袖ヶ浦市教育委員会

序 文

袖ヶ浦市は、房総半島の東京湾側中央部に位置しています。温暖な気候、東京湾や市南部の小櫃川によって形成された肥沃な田園地帯などからの豊かな自然の恩恵を受け、市内には古より人類が生活していた数多くの痕跡が残っています。現在、市内には 500 を超える遺跡が確認され、これらは現代に至るまでの先人たちの足跡であり、袖ヶ浦の歴史や文化の成り立ちを考える上で、欠くことのできない市民の財産です。

本書は、平成 30 年度に市内各所で実施した発掘調査成果の報告書です。発掘調査によって見つかった様々な生活の痕跡や、土器などの道具は、それらを個々で考えれば小さな成果かもしれませんが、その一つ一つが郷土の歴史を明らかにする大変貴重な資料です。これらの発掘調査の成果を取りまとめた本書が、学術資料としてだけでなく、多くの方々に手に取っていただき、身近に存在する埋蔵文化財を認識し、郷土への愛着や理解を深めるための資料として広く活用していただければ幸いです。

最後になりましたが、千葉県教育庁教育振興部文化財課の方々には、発掘調査の実施から本書の刊行に至るまでご指導を頂き、厚くお礼申し上げます。また、土地所有者及び関係諸氏ならびに関係機関の皆様には、多大なご協力とご理解を頂きましたことに対しまして心から感謝申し上げます。

平成 31 年 3 月

袖ヶ浦市教育委員会
教育長 御園 朋夫

例 言

1. 本書は、平成 30 年度に発掘作業を実施した宮ノ後遺跡第 3 次調査、中六遺跡第 24 次調査、向山野遺跡第 10・11 次調査・真里場古墳群第 5・6 次調査、堂庭山 B 遺跡第 2 次調査、堂庭山 B 遺跡第 3 次調査、二ノ山遺跡を収録した平成 30 年度袖ケ浦市内遺跡発掘調査報告書である。
2. 調査は、国庫・県費補助事業として千葉県教育委員会の指導を受け、発掘及び整理事業、報告書刊行までの業務を袖ケ浦市教育委員会が実施した。
3. 発掘及び整理事業期間は下記のとおりである。

宮ノ後遺跡第 3 次調査

発掘：平成 30 年 5 月 11 日～同年 5 月 23 日 整理：平成 30 年 10 月 18 日～平成 31 年 2 月 8 日

中六遺跡第 24 次調査

発掘：平成 30 年 5 月 24 日～同年 6 月 11 日 整理：平成 30 年 10 月 18 日～平成 31 年 3 月 7 日

向山野遺跡第 10・11 次調査・真里場古墳群第 5・6 次調査

発掘：平成 30 年 8 月 21 日～同年 8 月 29 日 整理：平成 30 年 11 月 13 日～平成 31 年 3 月 18 日

堂庭山 B 遺跡第 2 次調査

発掘：平成 30 年 10 月 22 日～同年 11 月 2 日 整理：平成 30 年 12 月 21 日～平成 31 年 2 月 8 日

堂庭山 B 遺跡第 3 次調査

発掘：平成 30 年 10 月 22 日～同年 11 月 2 日 整理：平成 30 年 12 月 21 日～平成 31 年 2 月 8 日

二ノ山遺跡

発掘：平成 30 年 10 月 22 日～同年 11 月 2 日 整理：平成 30 年 12 月 21 日～平成 31 年 2 月 8 日

4. 各遺跡の所在地は、下記のとおりである。

宮ノ後遺跡第 3 次調査

袖ケ浦市神納字宮ノ後 3,373 番地 1 他

中六遺跡第 24 次調査

袖ケ浦市蔵波字二ノ堀 3,037 番地 1

向山野遺跡第 10・11 次調査・真里場古墳群第 5・6 次調査

袖ケ浦市飯富字浜海道 2,975 番地 4

堂庭山 B 遺跡第 2 次調査

袖ケ浦市久保田字須田連 1,435 番地 10

堂庭山 B 遺跡第 3 次調査

袖ケ浦市久保田字須田連 1,435 番地 11

二ノ山遺跡

袖ケ浦市久保田代宿入会地字一ノ山台 3 番 2－2

5. 各遺跡の発掘及び整理事業の担当者は、下記のとおりである。

宮ノ後遺跡第 3 次調査

発掘：鎌田望里・簗島正広 整理：鎌田望里

中六遺跡第 24 次調査

発掘：鎌田望里・簗島正広 整理：鎌田望里

向山野遺跡第 10・11 次調査・真里場古墳群第 5・6 次調査

発掘：田中大介 整理：田中大介・大河原務

堂庭山 B 遺跡第 2 次調査

発掘：田中大介・大河原務 整理：大河原務
簗島正広

堂庭山 B 遺跡第 3 次調査

発掘：簗島正広・大河原務 整理：大河原務

二ノ山遺跡

発掘：大河原務 整理：大河原務

6. 本書で使⽤した地形図は、下記のとおりである。

第1図	国土地理院発行	1/25,000 地形図	「奈良輪」「姉崎」「木更津」「上総横田」
第2図	袖ヶ浦市発行	1/2,500 地形図	「No. 17」
第4図	袖ヶ浦市発行	1/2,500 地形図	「No. 13」「No. 14」「No. 18」「No. 19」
第7図	袖ヶ浦市発行	1/2,500 地形図	「No. 18」「No. 25」
第9図	国土地理院発行	1/25,000 地形図	「姉崎」
第10図	袖ヶ浦市発行	1/2,500 地形図	「No. 14」「No. 15」
第12図	国土地理院発行	1/25,000 地形図	「姉崎」
第13図	袖ヶ浦市発行	1/2,500 地形図	「No. 15」「No. 20」

7. 本書で使⽤したトレンチ名や遺構名は、基本的に発掘時のものを使⽤した。

8. 今回の調査に伴う遺物・記録類等は、袖ヶ浦市教育委員会で保管する予定である。

9. 遺跡のコードは、宮ノ後遺跡（S G 077）、中六遺跡（S G 013）、向山野遺跡・真里場古墳群（S G 029・S G 114）、堂庭山B遺跡（S G 127）、二ノ山遺跡（S G 128）である。各遺跡の調査は、数次にわたり実施されているため、括弧付けの数字で調査次数を示した。（第3次調査 → （3））

10. 発掘作業から報告書刊行に至るまで、千葉県教育委員会をはじめとする関係諸機関の方々からご指導・ご協力を頂いた。また、現地での作業においては調査区の土地所有者各位のご協力をいただいた。記して謝意を表したい。

目 次

序文	
例言	
序章 調査概要	1
1. 調査に至る経緯	
2. 調査経過	
3. 調査組織	
第2章 宮ノ後遺跡（3）	3
1. 周辺の遺跡と環境	
2. 調査と遺跡の概要	
3. まとめ	
第3章 中六遺跡（24）	6
1. 周辺の遺跡と環境	
2. 調査と遺跡の概要	
3. まとめ	
第4章 向山野遺跡（10）（11）・真里場古墳群（5）（6）	10
1. 周辺の遺跡と環境	
2. 調査と遺跡の概要	
3. まとめ	
第5章 堂庭山B遺跡（2）（3）	13
1. 周辺の遺跡と環境	
2. 調査と遺跡の概要	
3. まとめ	
第6章 二ノ山遺跡	16
1. 周辺の遺跡と環境	
2. 調査と遺跡の概要	
3. まとめ	

挿 図 目 次

第1図	調査遺跡位置図
第2図	宮ノ後遺跡調査区位置図
第3図	宮ノ後遺跡（3）遺構確認状況図、土層断面図、出土遺物実測図
第4図	中六遺跡調査区位置図
第5図	中六遺跡（24）遺構確認状況図、土層断面図
第6図	中六遺跡（24）出土遺物実測図
第7図	向山野遺跡・真里場古墳群調査区位置図
第8図	向山野遺跡（10）（11）・真里場古墳群（5）（6）遺構平面図、土層断面図、出土遺物実測図
第9図	堂庭山B遺跡周辺遺跡位置図
第10図	堂庭山B遺跡調査区位置図
第11図	堂庭山B遺跡（2）（3）遺構確認状況図、土層断面図
第12図	二ノ山遺跡周辺遺跡位置図
第13図	二ノ山遺跡調査区位置図
第14図	二ノ山遺跡遺構確認状況図、土層断面図、出土遺物実測図

表 目 次

第1表	中六遺跡（24）出土土器内訳表
第2表	中六遺跡（24）出土礫内訳表
第3表	向山野遺跡・真里場古墳群調査次数対応表

図 版 目 次

- 図版 1 宮ノ後遺跡 (3) ①
図版 2 宮ノ後遺跡 (3) ②
図版 3 中六遺跡 (24) ①
図版 4 中六遺跡 (24) ②
図版 5 向山野遺跡 (10) (11)・真里場古墳群 (5) (6)
図版 6 堂庭山B遺跡 (2) (3)・二ノ山遺跡

序章 調査概要

1. 調査に至る経緯

袖ヶ浦市教育委員会では、市内に所在する周知の埋蔵文化財包蔵地内において計画される中小企業等の開発行為に際して、遺跡の実態を把握するための確認調査や、個人住宅建設に際して、本調査を実施するため、国及び県の補助を受けている。

平成30年度は、次の6件についての発掘調査を実施した。

- 1 宮ノ後遺跡(3)(確認調査)……………宅地造成
- 2 中六遺跡(24)(確認調査)……………特別養護老人ホーム建設
- 3 向山野遺跡(10)(11)・真里場古墳群(5)(6)(確認調査・本調査)……個人住宅建設
- 4 堂庭山B遺跡(2)(確認調査)……………太陽光パネル設置
- 5 堂庭山B遺跡(3)(確認調査)……………太陽光パネル設置
- 6 二ノ山遺跡(確認調査)……………太陽光パネル設置

2. 調査経過

宮ノ後遺跡(3)

5月11日：環境整備、基準点測量、仮設トイレ設置、写真撮影、14日：重機によるトレンチ掘削、写真撮影、15日：重機によるトレンチ掘削、写真撮影、16日：重機によるトレンチ掘削、平面・断面図作成、写真撮影、17日：平面図作成、写真撮影、18日：平面・断面図作成、重機による埋戻し、写真撮影、21日：平面図作成、重機による埋戻し、写真撮影、22日：平面図作成、写真撮影、23日：仮設トイレ撤去、環境整備、写真撮影

中六遺跡(24)

5月24日：環境整備、基準点測量、仮設トイレ設置、写真撮影、28日：重機によるトレンチ掘削、写真撮影、29日：重機によるトレンチ掘削、写真撮影、30日：雨天中止、31日：写真撮影、6月1日：平面図作成、写真撮影、4日：重機によるトレンチ掘削、写真撮影、5日：平面・断面図作成、写真撮影、6日：雨天中止、7日：平面・断面図作成、写真撮影、8日：重機による埋戻し、写真撮影、11日：仮設トイレ撤去、環境整備、写真撮影

向山野遺跡(10)(11)・真里場古墳群(5)(6)

8月21日：環境整備、重機による掘削、遺構確認、写真撮影、平面図作成、22日：精査、写真撮影、平面図作成、23日：精査、24日：現場中止、27日：精査、写真撮影、断面図作成、28日：精査、写真撮影、平面・断面図作成、29日：精査、写真撮影、平面・断面図作成、環境整備

堂庭山B遺跡(2)

10月22日：環境整備、23日：重機によるトレンチ掘削、25日：基準点測量、26日：写真撮影、29日：断面図作成、写真撮影、30日：平面図作成、11月1日：重機による埋戻し、2日：環境整備

堂庭山B遺跡(3)

10月22日：環境整備、基準点測量、仮設トイレ設置、23～25日：重機によるトレンチ掘削、26日：写真撮影、29日：断面図作成、写真撮影、30日：平面図作成、11月1日：重機による埋戻し、2日：重機による埋戻し、仮設トイレ撤去、環境整備

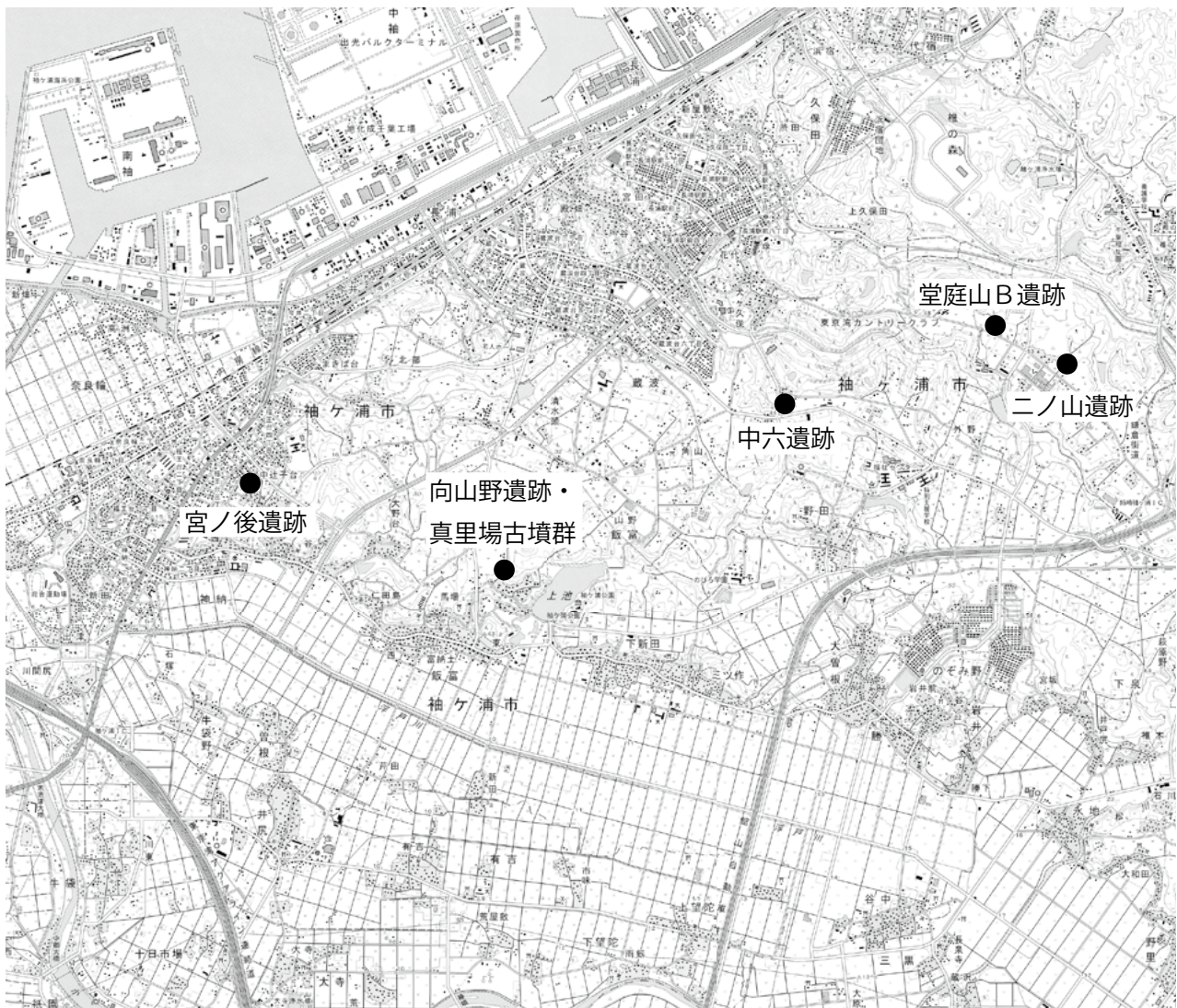
二ノ山遺跡

10月22日：環境整備、23日：機材搬入、重機によるトレンチ掘削、平面・断面図作成、写真撮影、24日：基準点測量、11月1日：重機による埋戻し、2日：写真撮影、環境整備

3. 調査組織

調査主体 袖ヶ浦市教育委員会

教 育 長	御園 朋夫	教 育 部 長	石井 俊一
教育部次長	末吉 幸夫	教育部参事兼生涯学習課長	小阪 潤一郎
生涯学習課文化振興班			
副課長兼文化振興班長	稲葉 理恵	主 査	田中 大介
副主査	簗島 正広	副主査	大河原 務
学芸員	鎌田 望里		



第1図 調査遺跡位置図 (1:50,000)

第2章 宮ノ後遺跡（3）

1. 周辺の遺跡と環境（第2図）

宮ノ後遺跡は小櫃川下流域右岸の袖ヶ浦台地上標高30～33 m程に位置する。遺跡北側は樹木状の浸食谷の谷底に面し、南側は眼下に小櫃川によって開析された沖積平野を臨む。

本遺跡では、これまでに2次にわたる調査が行われている。平成9年度に行われた第1次調査では、遺構は確認されず、弥生時代後期と古墳時代後期の土器が出土したのみである。第2次調査では、近世の溝状遺構2条、道路状遺構1条、土坑1基が検出されており、土坑から鉄製通貨が出土したほか、遺構外から古墳時代土師器が出土している。

周辺の遺跡としては、本遺跡から北東約100 mに鼻欠遺跡・鼻欠古墳群が位置し、弥生時代後期の竪穴住居と古墳時代中期～後期にかけて築造された古墳群が検出されている。南東約200 mには谷ノ台遺跡が位置し、縄文時代から近世に至るまでの遺構・遺物が検出されている。主な遺構としては弥生時代後期～古墳時代前期の竪穴住居や弥生時代中期～後期の方形周溝墓、古墳時代後期の円墳、奈良・平安時代の方形区画墓といった墓跡が多数検出されている。

2. 調査と遺跡の概要（第3図、図版1・2）

調査方法 宅地造成に伴い、6,867 m²を対象として確認調査を実施した。調査区に2 m×5 mを基本としたトレンチを設定し、重機による表土掘削、人力による遺構確認作業を行った。一部重機による掘削が不可能な場所においては人力で掘削を行った。

調査の概要 本調査区は、北東から南西に展開する遺跡のやや北側に位置する。近年は畑として利用されており、所々に攪乱を受けていた。土層の堆積状況は、調査区南側では表土から0.8 m程でソフトローム層（Ⅲ層）に至る。調査区北側は削平されており、0.2～0.3 mでⅢ層に至る。調査区西側には谷が入り、Ⅲ層までの深さは1.5 m程である。調査区からは、縄文時代炉穴1基、弥生時代方形周溝墓3基、近世溝状遺構2条・道路状遺構1条、時期不明土坑8基が検出された。

炉穴 21 Tより検出された。遺構に伴う遺物は出土しなかった。

方形周溝墓 11・13・30 Tから3基の方形周溝墓が検出された。11 T検出の方形周溝墓は表土から0.65 m程の暗褐色土中で検出された。13・30 T検出の方形周溝墓は表土直下から検出された。耕作により削平されていたため状態は不良だが、遺構中央に埋葬施設が認められた。周溝は北側にブリッジを持つとみられる。30 Tの北側からは方形周溝墓と想定される遺構が表土直下より検出された。形状は不明だがブリッジをもつ方形周溝墓とみられる。

溝状遺構 調査区北側で北西—南東方向に並走する2条の溝状遺構が検出された。17・19 Tで検出された溝状遺構は覆土に宝永の火山灰を含むため、近世の溝状遺構と想定される。20・32 Tで検出された溝状遺構も形状から同時期のものとみられる。

道路状遺構 33 Tで北東—南西方向に走る道路状遺構が検出された。遺構の覆土は硬質であり、深さは0.15 m程であった。

土坑 4・5・20・29・31・33・34 Tから合計8基の土坑が検出された。遺物を伴わないため、時期は不明である。Ⅲ層直上から検出されている。

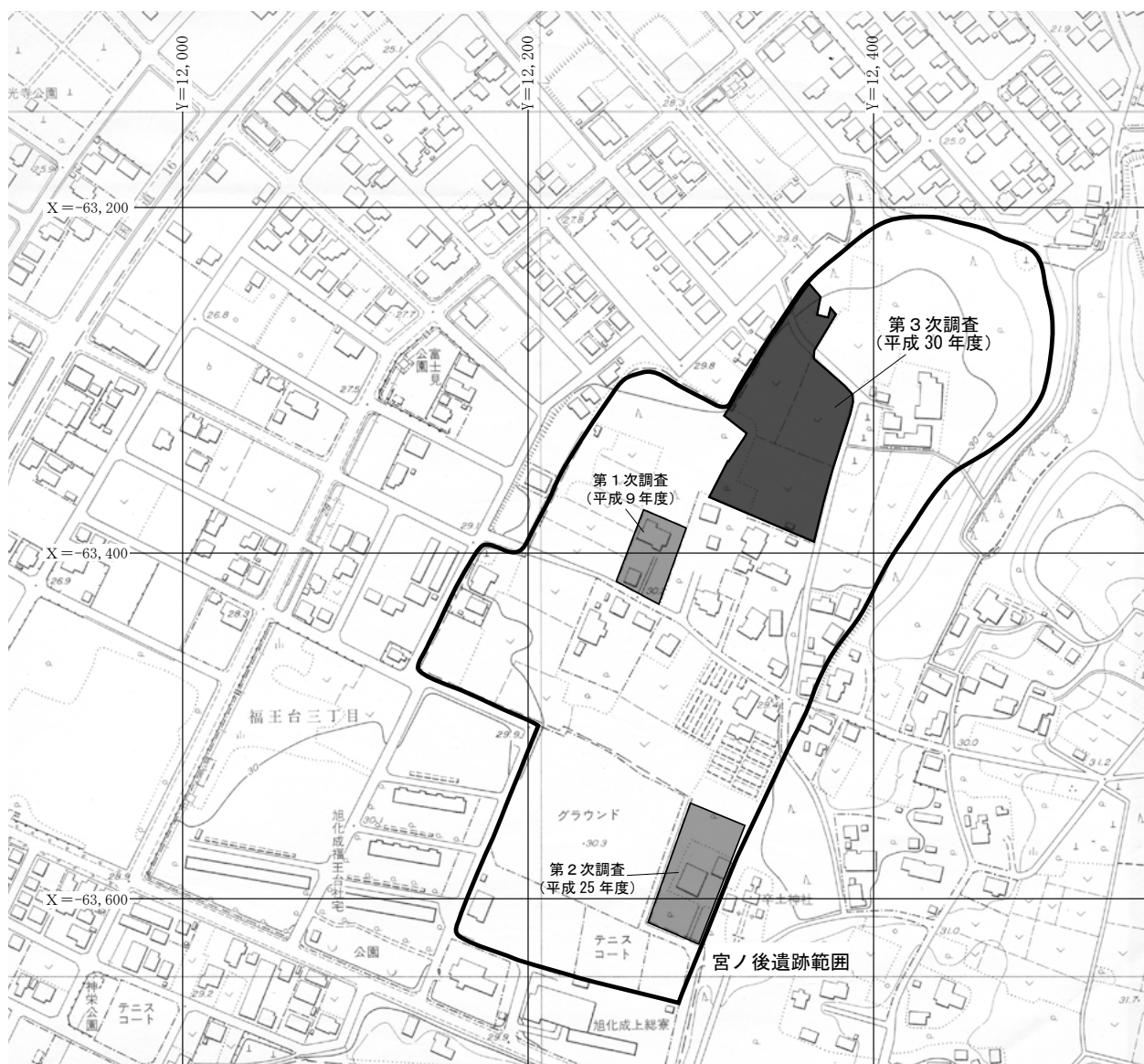
出土遺物 調査区からは弥生土器2点・112.56 g、古墳時代土師器1点・5.35 g、近世陶磁器2点・16.89 gが出土した。遺構に伴う遺物としては30 Tで検出された方形周溝墓の周溝確認面から弥生土器の底部が出土している。遺構外からは3 Tで弥生土器が1点、1 Tで近世陶磁器が2点出土しているほか、調査区から古墳時代土師器を表採している。

3. まとめ

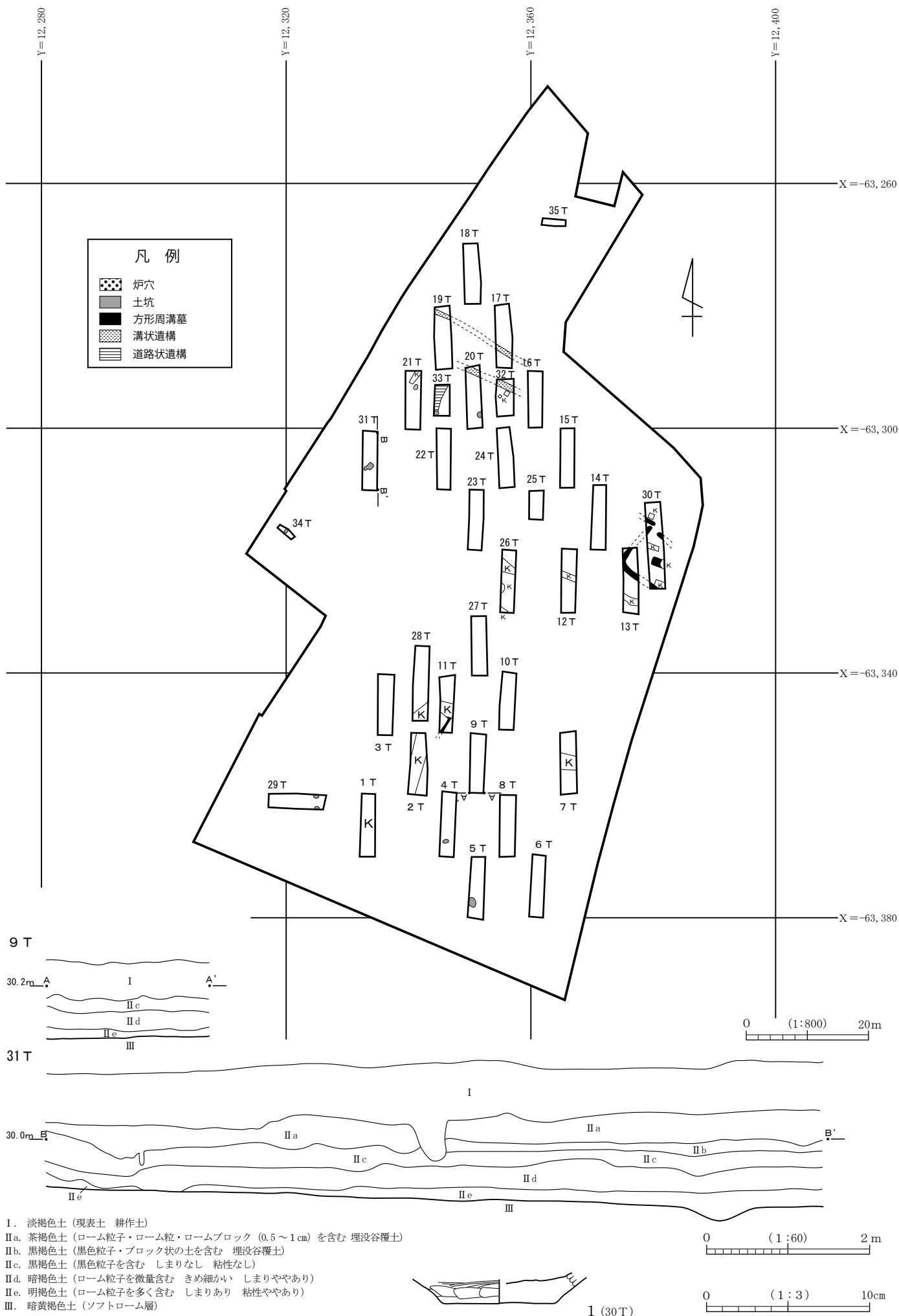
これまで宮ノ後遺跡では、近世以前の遺物は出土していたものの、遺構が認められていなかったため、遺跡の性格が不明瞭であった。今回の調査において縄文時代と弥生時代の遺構を確認することができた。調査区東側で弥生時代の方形周溝墓が2基隣接して検出されたことから、遺跡北東側は墓域となっている可能性が考えられる。遺跡北側で検出された近世溝状遺構は、第2次調査や近接する谷ノ台遺跡においても同様の遺構が検出されている。畑や道の近くから検出されることから地割の性格を持つと考察されており、今回検出された溝状遺構も同様のものと考えられる。

参考文献

簗島正広 1998『谷ノ台遺跡発掘調査報告書』（財）君津郡市文化財センター



第2図 宮ノ後遺跡調査区位置図 (1:4,000)



第3図 宮ノ後遺跡(3) 遺構確認状況図、土層断面図、出土遺物実測図

第3章 中六遺跡（24）

1. 周辺の遺跡と環境（第4図）

中六遺跡は袖ヶ浦台地中央部に位置し、蔵波川左岸の標高 40 ～ 45 m の平坦地に展開する。宅地造成や道路建設に伴い継続的に調査が実施されており、今回は第 24 次調査にあたる。

本遺跡では、旧石器時代～近世に至る遺構・遺物が検出されている。特に縄文時代早期と古墳時代前期の遺構・遺物が主体となっており、遺跡北西側の台地縁辺部を中心に縄文時代早期の炉穴や土坑、古墳時代前期の竪穴住居が検出されている。遺跡北端では、円墳を中心とした大谷古墳群が形成されている。また、今回の調査区の南側で実施した第 8 次調査においても、円墳の周溝が検出されている。近世の遺構としては、遺跡東側を南北に縦断、遺跡中央部を東西に横断する道路状遺構が検出されている。

今回検出した縄文時代早期と古墳時代の遺構・遺物と同時期の周辺遺跡について概観する。縄文時代早期の遺跡としては、本遺跡から南西約 500 m に角山遺跡が位置する。角山遺跡からは縄文時代早期撚糸文期・条痕文期の包含層と条痕文期の炉穴が検出されている。また、東約 2 km に所在する正源戸 B 遺跡においても同時期の遺構・遺物が検出されており、本遺跡と同時期に営まれていたと考えられる。古墳時代の遺跡としては、本遺跡に内包される大谷古墳群が挙げられる。大谷古墳群は、円墳 7 基からなる古墳群として周知されている。第 11・12 次調査ではその内の 1 基が調査されており、出土遺物から古墳時代後期に築造されたことが判明した。また、この調査では新たに古墳時代前期の方墳が 2 基検出されている。蔵波川を挟んで対岸に位置する神田古墳群では、古墳時代前期の前方後方墳 2 基と方墳 1 基が確認されており、本遺跡との関連性がうかがえる。

2. 調査と遺跡の概要（第5・6図、第1・2表、図版3・4）

調査方法 特別養護老人ホーム建設に伴い、6,079.16 m²を調査対象として確認調査を実施した。調査区に 2 m × 10 m を基本としたトレンチを設定し、遺構の性格を明確にするため 2 m × 5 m 程のトレンチを追加で設けた。

遺跡の概要 本調査区は遺跡の東端に位置し、北に向かって傾斜した地形を呈する。所々に樹木根の影響による攪乱を受けていた。土層の堆積状況は、調査区南側では表土から遺構確認面まで 0.2 m ～ 0.3 m 程である。調査区中央やや南側では表土直下からソフトローム層が検出され、北側に向かって土層の堆積が厚くなる。調査区からは縄文時代早期の土坑 15 基・炉穴 3 基、古墳時代の円墳 2 基、近代道路状遺構 2 条、時期不明溝状遺構 1 条が検出された。調査区南側は縄文時代早期の包含層となっていた。

土坑 1・3・6・10・11・12・14・15・18・23 T から合計 15 基の土坑が検出された。1 T の南側で検出された土坑の確認面から縄文時代早期条痕文の土器が出土した。他のトレンチで検出された土坑から遺物は出土していないが、縄文時代早期包含層下から検出されていることから縄文時代早期の土坑と推測する。

炉穴 29 T から 3 基まとまって検出された。遺構に伴う遺物は出土しなかった。

道路状遺構 2 条の道路状遺構が検出された。2 T から検出された道路状遺構は、南北に延びると推定する。調査区北東側では、北西―南東方向に延びる道路状遺構が検出された。北東側の道路状遺構は地元の方の話によると北西の谷に向かって延びており、50 年程前まで使われていたとのことである。

溝状遺構 17 T の道路状遺構の下から検出された。北東―南西方向に延びると推定される。

包含層 調査区南西側を中心に縄文時代早期撚糸文と条痕文を主体とする土器が出土した。また 31 T では礫が多量に出土しており、周囲に礫群をなしている可能性がある。

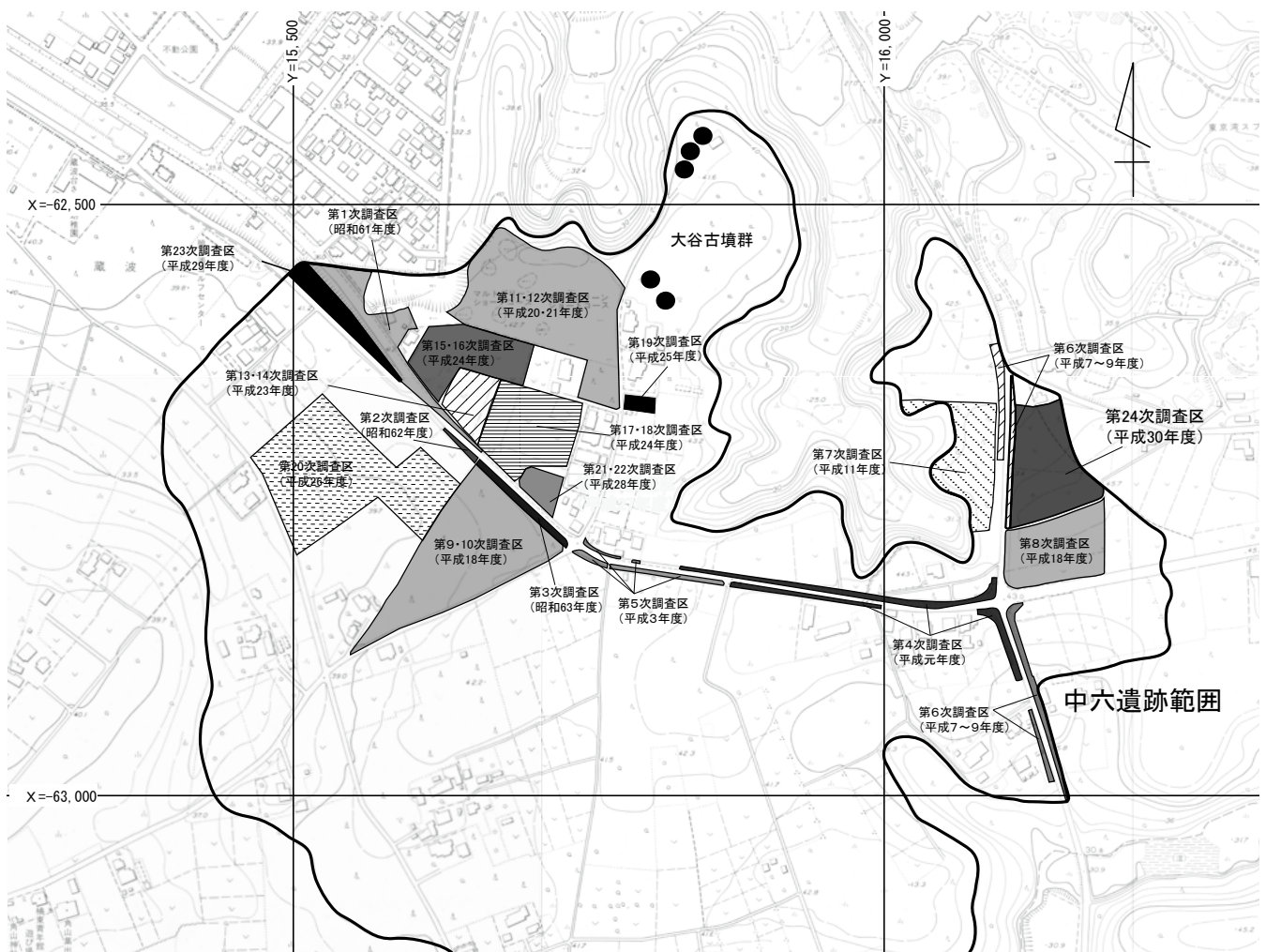
出土遺物 縄文土器 11 点・235.73 g、土師器 1 点・1.84 g、礫 31 点・549.40 g が出土した。時期・型式がわかる縄文土器の内訳は、早期撚糸文 4 点・152.98 g、早期条痕文 3 点・42.06 g、前期諸磯式 1 点・4.61 g である。土器は調査区南西側を中心に出土した。1～4 は縄文時代早期撚糸文の土器である。1・2 は口縁部で、縦位に撚糸文を施す。1 は口唇部が外反し、胎土に雲母を含む。2 は口唇部に斜位の撚糸文を施す。3・4 は胴部で、斜位に縄文を施す。型式は夏島～稻荷台式とみられる。5・6 は条痕文の土器である。内外面に条痕文を施し、胎土に繊維を含む。5 は補修孔が認められる。礫はすべて 31 T から出土しており、欠損礫がやや多い。石材はチャートが最も多く、次いで流紋岩、石英斑岩である。

3. まとめ

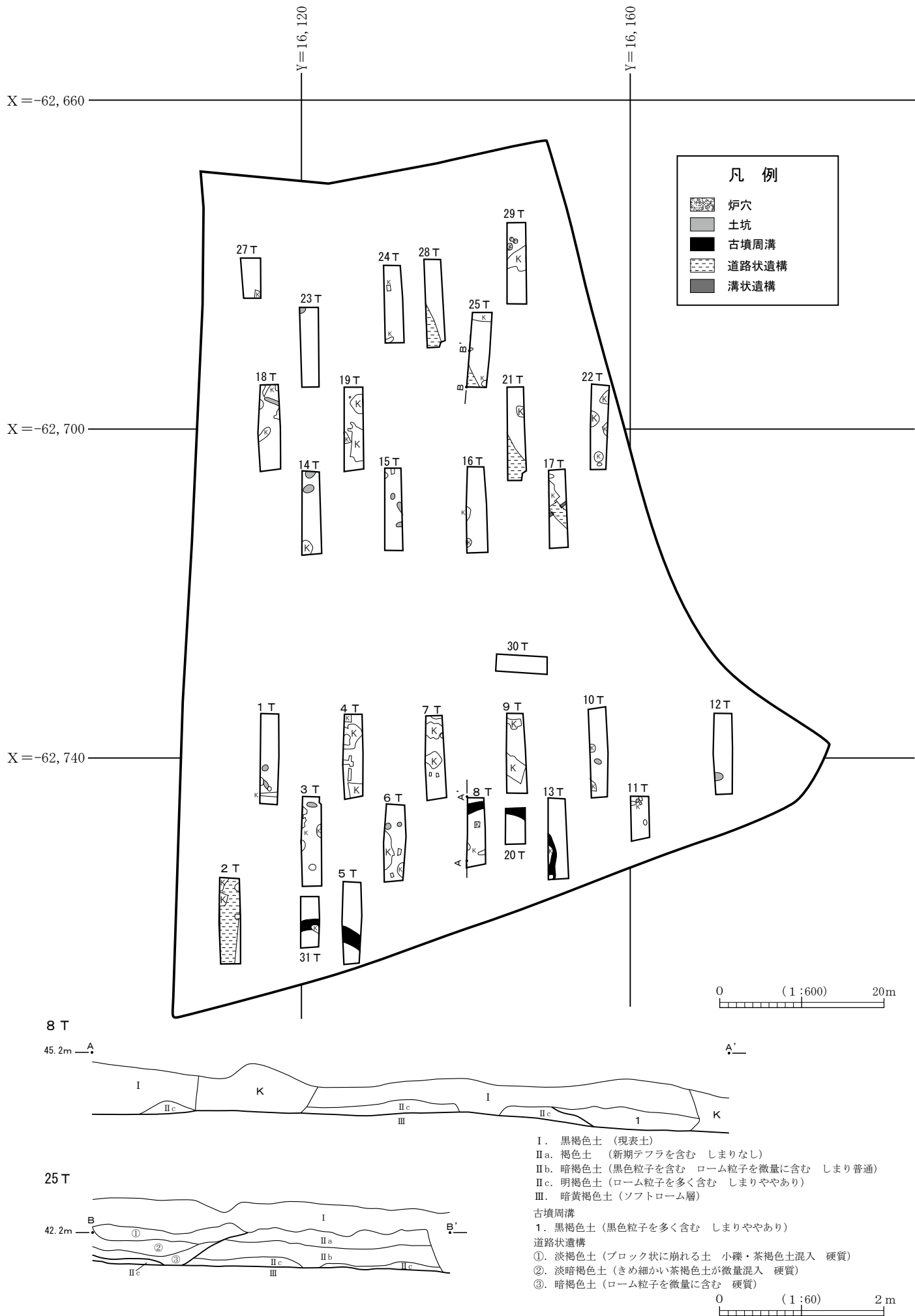
今回の調査では、調査区南側を中心に縄文時代早期の包含層が分布していることが明らかとなった。遺跡北西側では同時期の包含層が広がっており、遺構が密に広がっているが、本調査区においては遺構の分布は薄いと思われる。調査区南側では 2 基の円墳が検出されたことにより、第 8 次調査で検出された円墳と合わせて遺跡の東端には少なくとも 3 基からなる古墳群が形成されていたことが判明した。大谷古墳群や神田古墳群とともに蔵波川流域の台地縁辺部には古墳が点在していたとみられる。

参考文献

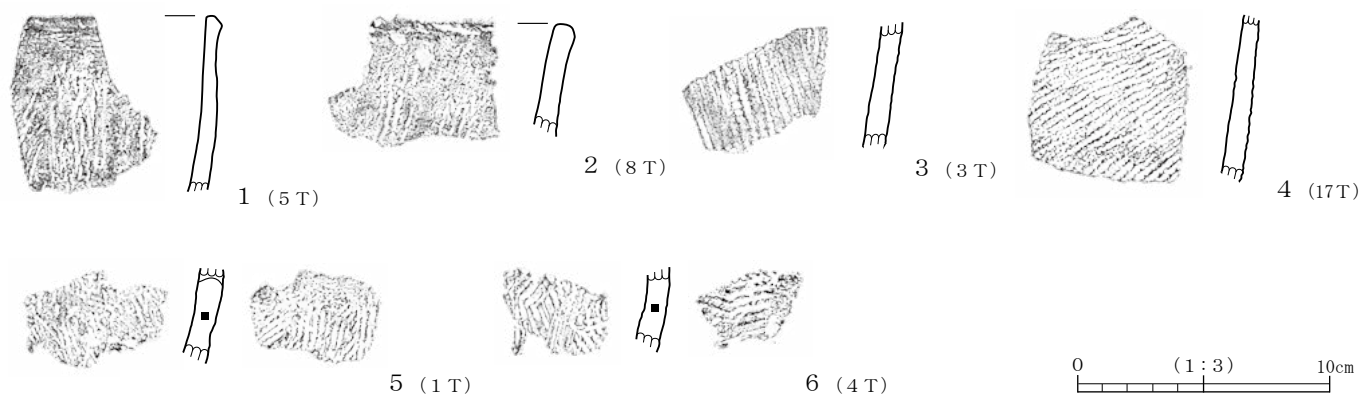
西原崇浩 2011 『中六遺跡第 11・12 次発掘調査報告書』 袖ヶ浦市教育委員会



第 4 図 中六遺跡調査区位置図 (1 : 6,000)



第 5 図 中六遺跡（24）遺構確認状況図、土層断面図



第6図 中六遺跡（24）出土遺物実測図

第1表 中六遺跡（24）出土土器内訳表

	早期				前期		不明縄文土器		縄文土器合計		土師器		トレンチ合計	
トレンチ番号	燃糸文		条痕文		諸磯									
	個数	重量(g)	個数	重量(g)	個数	重量(g)	個数	重量(g)	個数	重量(g)	個数	重量(g)	個数	重量(g)
1T			2	28.70			2	14.28	4	42.98			4	42.98
3T	1	29.24							1	29.24			1	29.24
4T			1	13.36					1	13.36			1	13.36
5T	1	33.83							1	33.83			1	33.83
6T											1	1.84	1	1.84
8T	1	41.27							1	41.27			1	41.27
9T					1	4.61			1	4.61			1	4.61
17T	1	48.64							1	48.64			1	48.64
24T							1	21.80	1	21.80			1	21.80
種別合計	4	152.98	3	42.06	1	4.61	3	36.08	11	235.73	1	1.84	12	237.57

第2表 中六遺跡（24）出土礫内訳表

		チャート		流紋岩		砂岩		泥岩		石英斑岩		凝灰岩		合計	
トレンチ番号	形状	個数	重量(g)	個数	重量(g)	個数	重量(g)	個数	重量(g)	個数	重量(g)	個数	重量(g)	個数	重量(g)
31T	欠損	6	82.81	5	36.07	3	32.54	1	28.82	3	90.45			18	270.69
	完形	5	109.86	3	79.32	1	8.33			2	41.97	2	39.23	13	278.71
	合計	11	192.67	8	115.39	4	40.87	1	28.82	5	132.42	2	39.23	31	549.40

第4章 向山野遺跡（10）（11）・真里場古墳群（5）（6）

1. 周辺の遺跡と環境（第7図）

向山野遺跡・真里場古墳群は、小櫃川の沖積低地を臨む袖ヶ浦台地南端部に所在する。遺跡が所在する台地は、西側を境川の支流、南西側を小櫃川の支流により開析され、南側に張り出す比較的広い平坦面を形成しており、その先端側の標高約 37 m 付近に遺跡が立地していることになる。これまでの調査の結果、古墳時代前期を中心に、弥生時代後期から古墳時代中期の住居、古墳時代後期の古墳群、奈良・平安時代の道路状遺構、中・近世の溝状遺構などが検出された。古墳は、現在のところ円墳が 20 基確認されている。

周辺の遺跡をみると、縄文時代後・晩期の集落である国史跡山野貝塚が東側に隣接する。また、境川流域の古墳時代前期の集落として、東側約 1.5 km に谷ノ台遺跡、北側約 2 km に金井崎遺跡が所在する。

2. 調査と遺跡の概要（第8図、図版5）

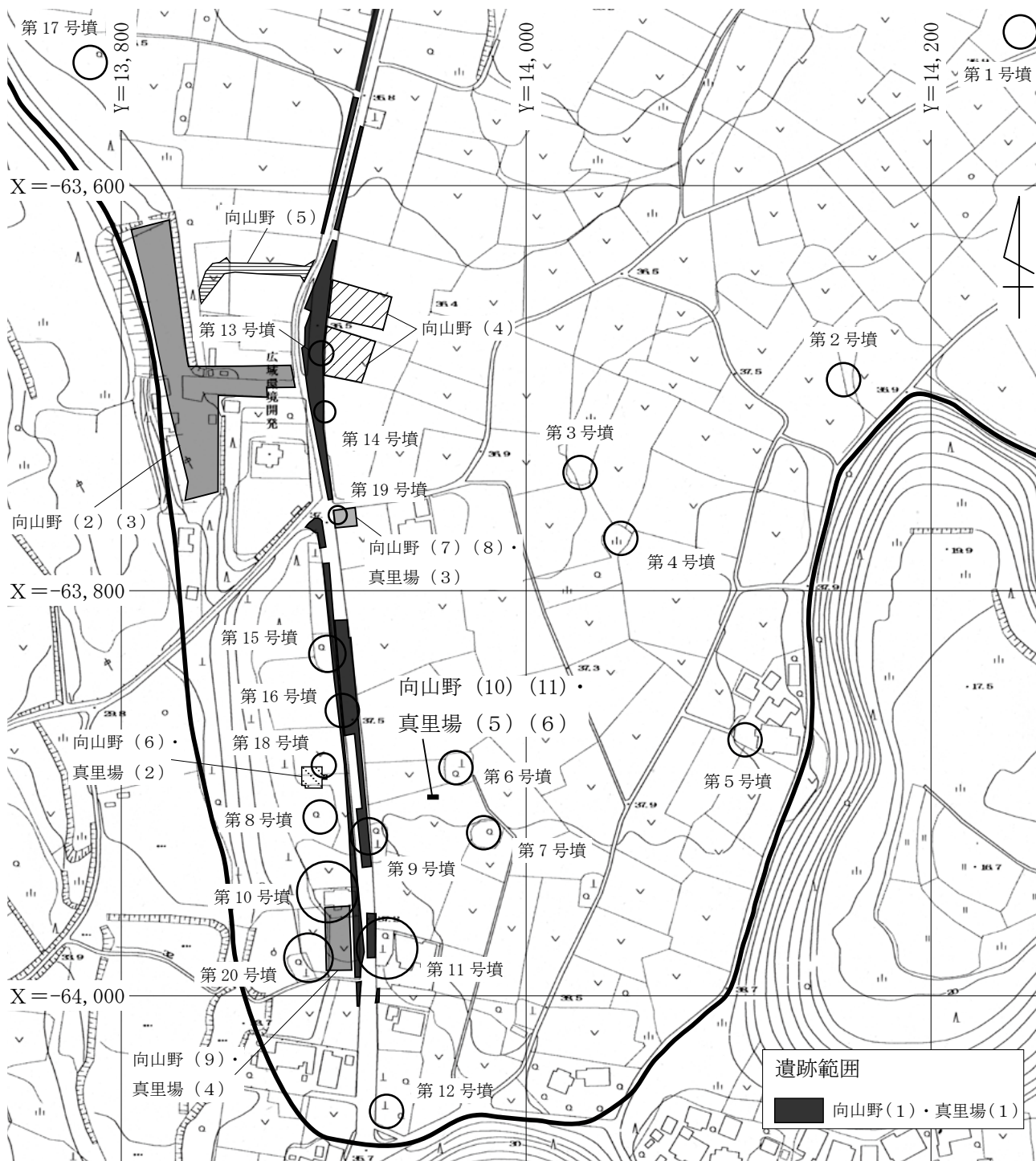
調査方法 個人住宅建設に伴う浄化槽設置部分の調査で、対象範囲 8.61 m² 全面を確認調査・本調査として実施した。表土除去は重機により行い、黒色土層（4 層）上面を遺構確認面とし、4 層以下の精査を人力で行った。

遺跡の概要 4 層中から古墳時代前期の土師器片が多く出土し、4 層を 0.2 m 掘り下げたところ、S I 022 の床面が検出された。調査区西側では硬化が認められたのに対し、東側は硬化が不明確であったが、4 層以下がほぼ同レベルであったため、1 軒の住居の床面と捉えた。4 層以上から古墳時代土師器 338.92 g、チャート製の二次加工のある剥片 1 点・4.32 g、礫 2 点・9.34 g、4 層中から古墳時代土師器 168.68 g、4 層以下の貼床から古墳時代土師器が 145.85 g 出土した。1 は古墳時代前期埴の口縁部で、外面に縦位、内面に横位のミガキが施される。また、外面に赤彩が施される。2～4 は、弥生時代後期から古墳時代前期壺の頸部で、外面に羽状縄文が施される。2 は折返し口縁で、横位に連続する刻み、3 は円形の貼付けが施される。

調査区中央では、S I 022 の床面を掘り込む S K 004 が検出された。S K 004 は、南北に長い長楕円形の平面形で、北端部は船の舳先状を呈する。断面形は、北側の壁面が中段と底面で大きく挟まれる形状を呈し、底面は平坦となる。規模は、上面現存長軸 1.68 m、短軸 1.02 m、底面現存長軸 1.89 m、掘り込み確認面からの深さが 1.2 m を測る。土層堆積は、底面直上に著しく締まる暗褐色土（⑩）が堆積し、その上部にロームブロックを多く含む⑦～⑨、その上部の壁面に沿って締まりの強い暗褐色土（⑥）、その内側にローム主体の土層（⑤）、締まりが弱くロームをあまり含まない土層（②～④）が堆積し、最上層の黒色土（①）に全体が被覆される。出土遺物は古墳時代土師器 89.16 g、底面から石鏃 1 点・1.54 g が出土した。6 は古墳時代前期台付甕の台部で、外面に縦位、斜位のハケメが施される。7 はチャート製の石鏃で、両面全体に調整が施され、凹基の二等辺三角形形状を呈する。

3. まとめ

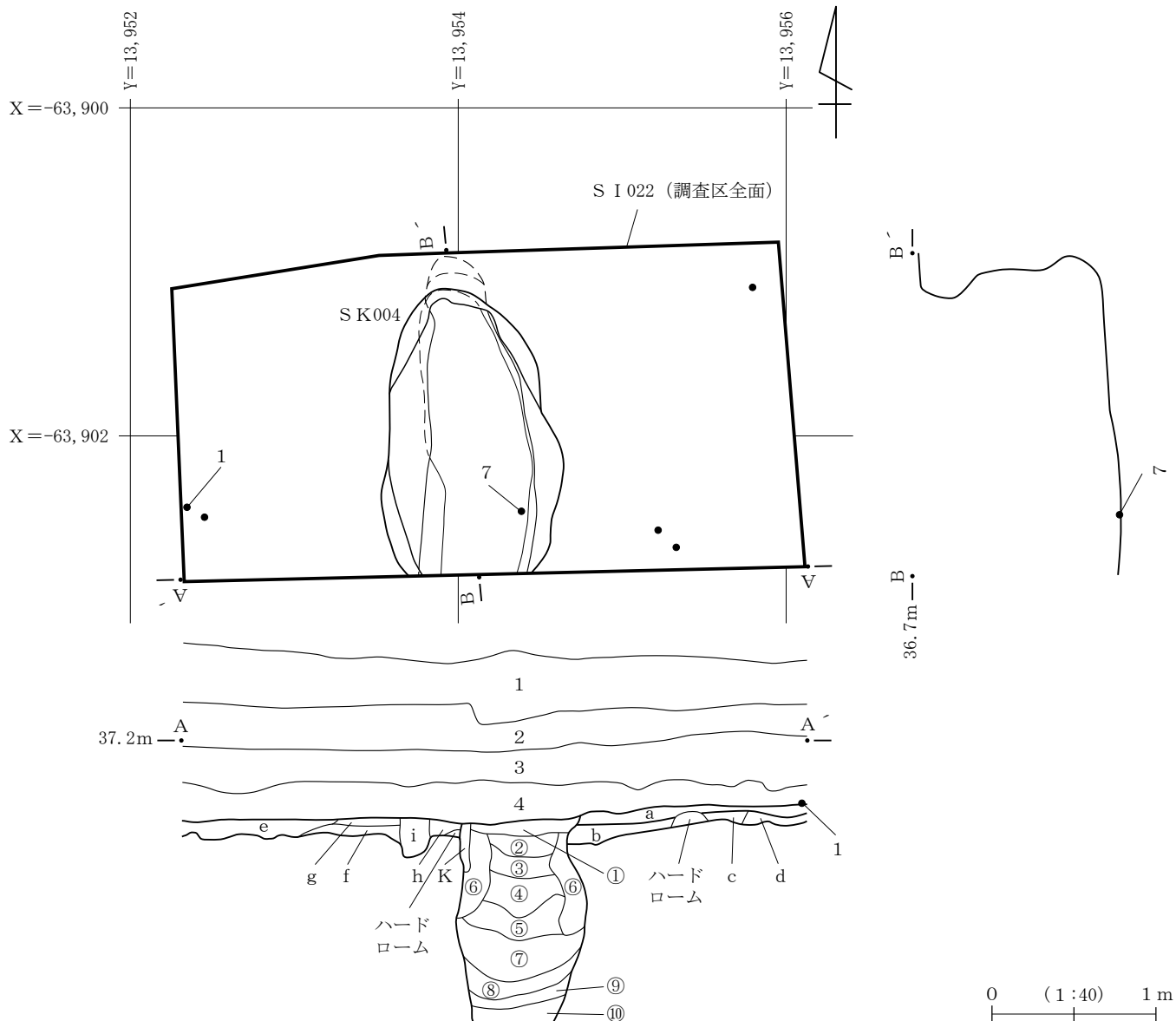
本調査区からは、古墳時代前期の住居 1 軒と古墳時代前期以降の土坑 1 基が検出された。S K 004 は、縄文時代の陥穴状を呈し、底面から石鏃が出土しているが、確実に S I 022 の床面を掘り込んでおり、古墳時代前期の土師器が出土していることから、少なくとも古墳時代前期以降に形成された土坑と考えられる。



第7図 向山野遺跡・真里場古墳群調査区位置図 (1 : 3,000)

第3表 向山野遺跡・真里場古墳群調査次数対応表

調査次数	調査種別	検出遺構 (刊行物掲載番号)	刊行物	刊行物掲載遺跡名
向山野遺跡 (1)・ 真里場古墳群 (1)	本調査	竪穴住居: S I 001~011 土坑: S K 001・002 溝状遺構: S D 001~021 道路状遺構: S A 001~006 古墳: 第9~11・13~16号墳	『千葉県袖ヶ浦町 寒沢遺跡・向萩原遺跡・向山野遺跡』 (財) 君津郡市文化財センター 1991 能城秀喜他	向山野遺跡
向山野遺跡 (2)	確認調査		『平成5年度袖ヶ浦市内遺跡発掘調査報告書』 袖ヶ浦市教育委員会 1994 藤平裕子	向山野B遺跡
向山野遺跡 (3)	本調査	竪穴住居: S I 012~021 土坑: S K 003 (001) 方形周溝墓: S Z 001 (S F 001) 溝状遺構: S D 022~026 (012~016) 道路状遺構: S A 007 (001)	『袖ヶ浦市向山野B遺跡発掘調査報告書』 袖ヶ浦市教育委員会 1996 岡野祐二	向山野B遺跡
向山野遺跡 (4)	確認調査		『平成10年度袖ヶ浦市内遺跡発掘調査報告書』 袖ヶ浦市教育委員会 1999 大谷弘幸他	向山野B遺跡 (1) (2)
向山野遺跡 (5)	確認調査	溝状遺構 S D 027 (018)	『平成14年度袖ヶ浦市内遺跡発掘調査報告書』 袖ヶ浦市教育委員会 2003 光江章	向山野B遺跡第5次調査
向山野遺跡 (6)・ 真里場古墳群 (2)	確認・ 本調査	溝状遺構: S D 028 (019) 古墳: 第18号墳	『千葉県袖ヶ浦市真里場古墳群 (2)・向山野遺跡 (6)』 袖ヶ浦市教育委員会 2013 桐村久美子	真里場古墳群 (2)・ 向山野遺跡 (6)
向山野遺跡 (7) (8)・ 真里場古墳群 (3)	確認調査 本調査	古墳: 第19号墳	『平成25年度千葉県袖ヶ浦市内遺跡発掘調査報告書』 袖ヶ浦市教育委員会 2014 桐村久美子他	向山野遺跡第7次調査・ 向山野遺跡第8次調査
向山野遺跡 (9)・ 真里場古墳群 (4)	確認調査	古墳: 第10・20号墳	『平成26年度袖ヶ浦市内遺跡発掘調査報告書』 袖ヶ浦市教育委員会 2015 西原崇浩他	向山野遺跡第9次調査・ 真里場古墳群第3次調査



基本層序

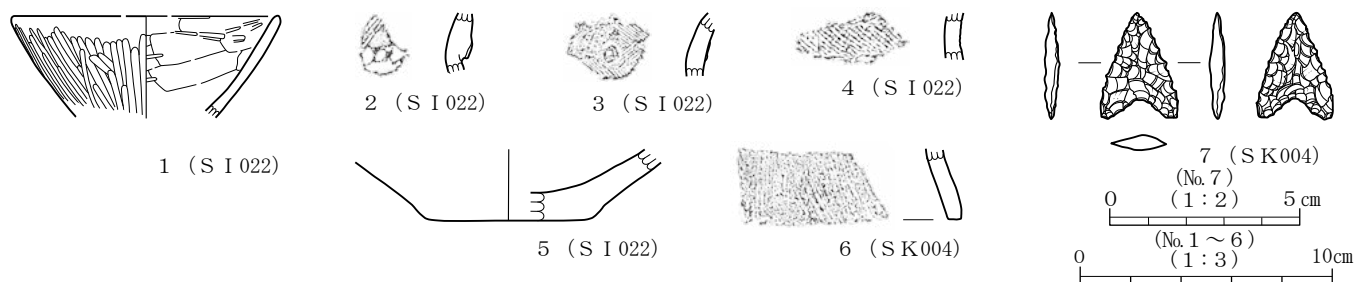
- 1 黒褐色土 現表土、しまり：強い、橙色土ブロック多量含む
- 2 黒褐色土 粘性：弱い、しまり：強い、橙色粒子少量含む
- 3 暗褐色土 粘性：弱い、しまり：弱い、ローム粒子微量含む
- 4 黒色土 粘性：強い、しまり：弱い、ロームブロック微量含む

S I 022

- a 黒褐色土 粘性：弱い、しまり：弱い、ローム粒子少量、ロームブロック微量含む、S I 022 覆土
- b 暗黄褐色土 粘性：弱い、しまり：弱い、ロームブロック主体、S I 022 貼床
- c 暗黄褐色土 粘性：強い、しまり：弱い、ローム粒子主体、S I 022 貼床
- d 暗黄褐色土 粘性：強い、しまり：弱い、ローム粒子主体、c層よりローム粒子多い、S I 022 貼床
- e 黒褐色土 粘性：弱い、しまり：強い、ローム粒子多量含む、S I 022 貼床
- f 黒褐色土 粘性：強い、しまり：強い、e層より明るい、S I 022 貼床
- g 暗黄褐色土 粘性：強い、しまり：強い、ローム粒子主体、ロームブロック少量含む、S I 022 貼床
- h 暗黄褐色土 粘性：弱い、しまり：弱い、ローム主体、S I 022 貼床
- i 黒色土 粘性：強い、しまり：弱い、ピットか

S K004

- ① 黒褐色土 ローム粒子微量含む
- ② 暗黄褐色土 ロームブロック多量含む
- ③ 暗褐色土 粘性：強い、しまり：弱い、ローム粒子少量含む
- ④ 黒色土 粘性：強い、しまり：弱い、ロームブロック少量含む
- ⑤ 暗黄褐色土 粘性：強い、しまり：弱い、ローム主体
- ⑥ 暗褐色土 粘性：弱い、しまり：強い、ローム粒子・ブロック少量含む
- ⑦ 黒褐色土 粘性：強い、しまり：弱い、ロームブロック多量含む
- ⑧ 黄褐色土 粘性：強い、しまり：弱い、ローム主体
- ⑨ 暗黄褐色土 粘性：強い、しまり：弱い、ロームを斑状に含む
- ⑩ 暗褐色土 粘性：強い、しまり：著しく強い



第8図 向山野遺跡 (10) (11)・真里場古墳群 (5) (6) 遺構平面図、土層断面図、出土遺物実測図

第5章 堂庭山B遺跡（2）（3）

1. 周辺の遺跡と環境（第9・10図）

堂庭山B遺跡は、袖ヶ浦台地の北部に位置する。遺跡周辺は久保田川と蔵波川により開析され、台地と谷が入り組んだ複雑な地形を呈しており、本遺跡は両河川によって開析された西側に延びる尾根状の台地の中部周辺に当たり、入り組んだ舌状台地が南北に延びる。本遺跡は北部が久保田川上流域左岸、南部が蔵波川上流域右岸にあたる台地縁辺部から平坦部にあたり、本調査区は標高48mの台地平坦部に位置する。本遺跡は、遺跡南東側の台地縁辺部の調査が行われており、古墳時代後期の竪穴住居が検出されている。

周辺遺跡は、久保田川中流域左岸に展開する弥生時代中期から古墳時代後期の集落が営まれた美生遺跡群や、蔵波川上流域両岸に立地する古墳時代後期の竪穴住居が検出された子者清水遺跡・正源戸B遺跡、蔵波川を挟んで本遺跡の対岸に立地する古墳時代後期の前方後円墳、竪穴住居が検出された蔵波六山遺跡等が挙げられる。

なお、堂庭山B遺跡（2）と堂庭山B遺跡（3）はそれぞれ別の地権者からの届出に基づく発掘調査ではあるが、届出時期が近く、隣接地であることから同時期に実施したため、同じ章で報告する。

2. 調査と遺跡の概要（第11図、図版6）

調査方法 確認調査は、太陽光パネル設置に伴い、堂庭山B遺跡（2）は962㎡、堂庭山B遺跡（3）は1,176㎡を対象として実施した。トレンチは2m×5mと2m×10mを基本に、両調査区併せて10箇所設定した。ただし、堂庭山B遺跡（2）は樹木が繁茂していたため、それを避けて掘削可能であった範囲内にトレンチを設定し、調査を実施した。トレンチの掘削は重機により行い、遺構確認作業は人力により行った。

遺構・遺物 遺構は、堂庭山B遺跡（2）からは検出されなかった。堂庭山B遺跡（3）からは、6・8・10Tから土坑が1基ずつ検出された。遺構に伴う遺物は出土していないが、本調査区からは古墳時代土師器が出土していることから、同時期の遺構と判断した。対象地全域の表土下からは良好なテフラ層が確認できる。

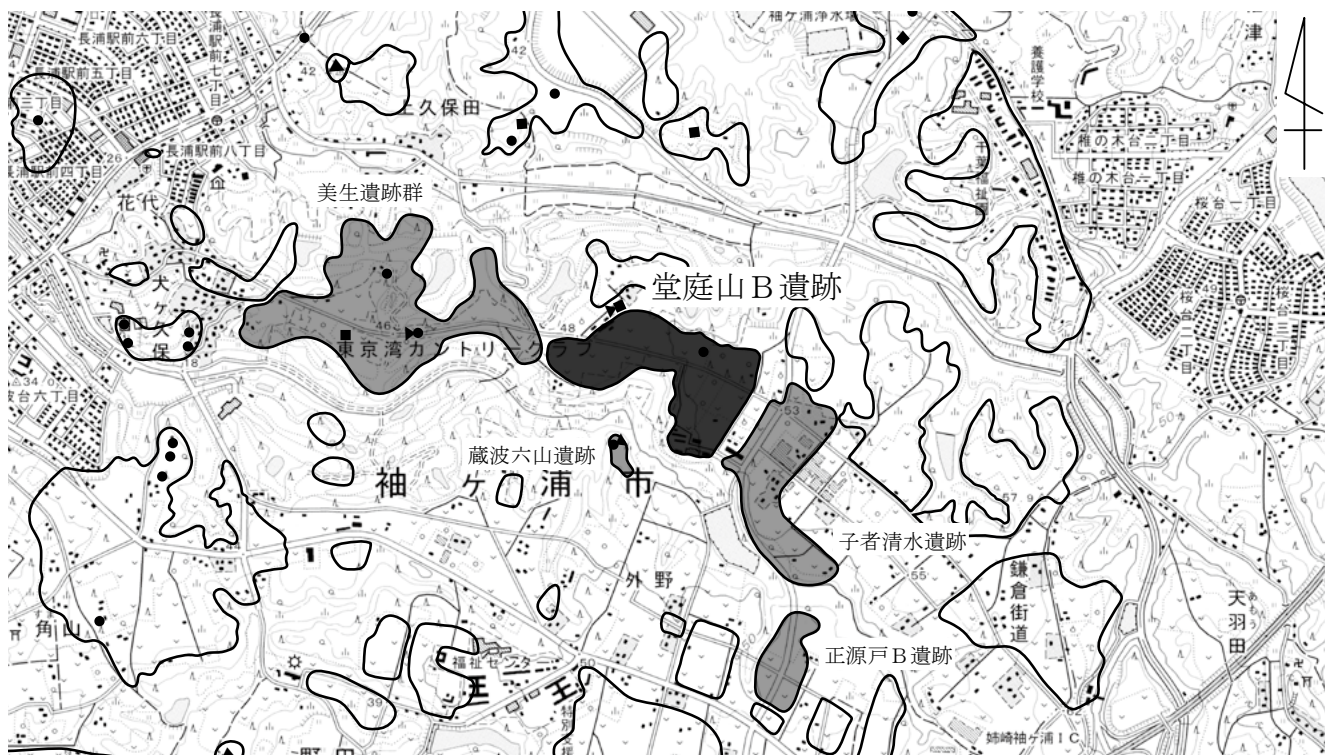
遺物は土師器1.35gが出土した。9Tからの出土である。小片のため、図化はしていない。

3. まとめ

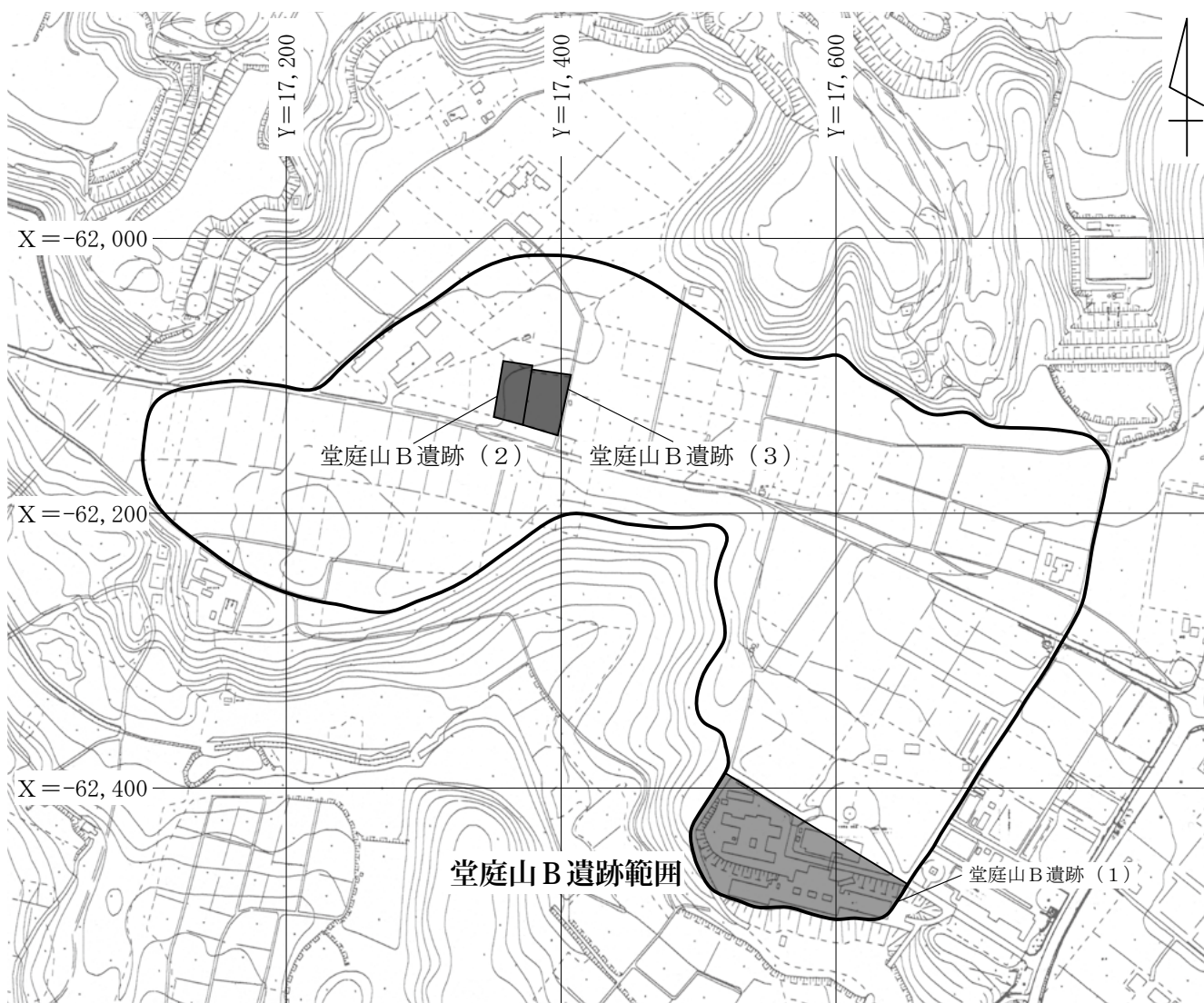
本調査区からは古墳時代の土坑が3基検出された。調査区全域の表土下からは良好なテフラ層が確認できることから、後世の土地改良の影響を受けたものとは考えづらい。久保田川・蔵波川流域の古墳時代の遺構は、舌状台地の縁辺部には密に、平坦部には疎らにしか分布しない傾向が見られる。本調査区周辺の台地平坦部も周辺遺跡同様に古墳時代の遺構・遺物が疎らに分布するものと推測される。

参考文献

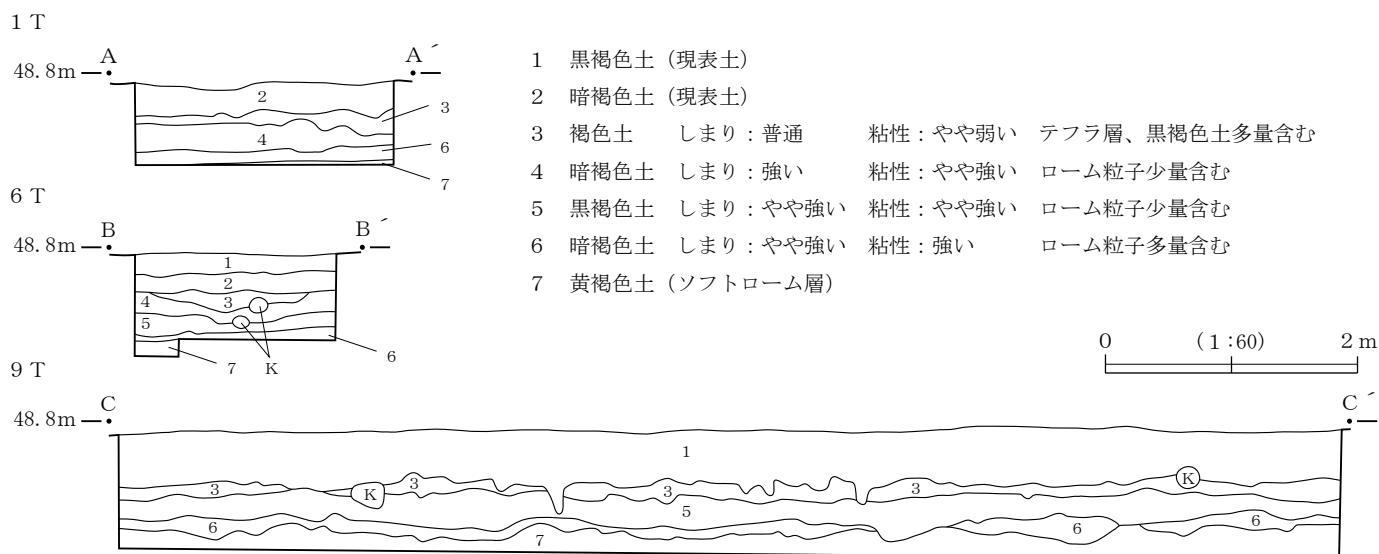
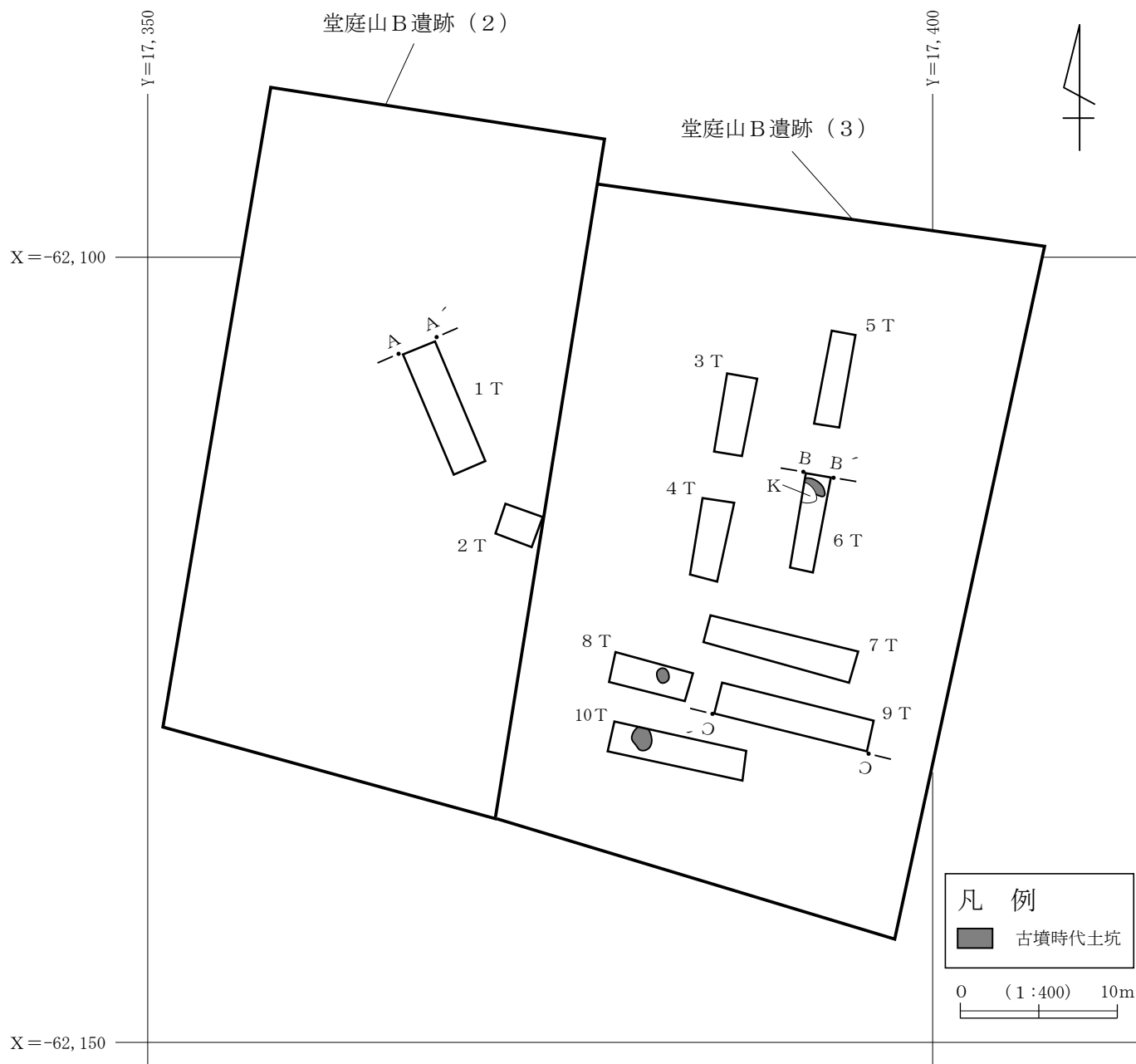
- 加藤正信他 1996 『袖ヶ浦市堂庭山B遺跡』（財）千葉県文化財センター
- 能城秀喜 1997 『平成8年度袖ヶ浦市内遺跡発掘調査報告書』袖ヶ浦市教育委員会
- 小高幸男 1998 『美生遺跡群Ⅳ 第2地点』（財）君津都市文化財センター
- 西原崇浩 2000 『正源戸B遺跡・子者清水遺跡』（財）君津都市文化財センター



第9図 堂庭山B遺跡周辺遺跡位置図（1：25,000）



第10図 堂庭山B遺跡調査区位置図（1：5,000）



第 11 図 堂庭山B遺跡 (2) (3) 遺構確認状況図、土層断面図

第6章 二ノ山遺跡

1. 周辺の遺跡と環境（第12・13図）

二ノ山遺跡は、袖ヶ浦台地の北部に位置し、久保田川上流域左岸の標高 52 ～ 56 m の舌状台地の縁辺部に展開する。周辺は久保田川と蔵波川により開析され、台地と谷が入り組んだ複雑な地形を呈している。本遺跡は、縄文時代、古墳時代の埋蔵文化財包蔵地として周知されており、今回初めて発掘調査を実施した。

同台地上の周辺遺跡は、久保田川流域沿いの豆作台遺跡、兎谷台遺跡、蔵波川流域の子者清水遺跡、正源戸B遺跡、堂庭山B遺跡等が挙げられる。久保田川右岸の豆作台遺跡からは縄文時代早期・前期後半の竪穴住居等の遺構や遺物が多数検出され、久保田川左岸の兎谷台遺跡からは縄文時代早期の遺構・遺物が検出されている。蔵波川右岸の子者清水遺跡、堂庭山B遺跡と蔵波川左岸の正源戸B遺跡からは台地縁辺部を中心に縄文時代早期の炉穴や縄文時代早期前葉撚糸文期・後葉条痕文期の土器が検出されている。

2. 調査と遺跡の概要（第14図、図版6）

調査方法 確認調査は、太陽光パネル設置に伴い、430 m²を対象として実施した。調査範囲は狭小なうえ、樹木が繁茂していたため、それを避けて掘削可能であった範囲内にトレンチを設定し、調査を実施した。トレンチの掘削は重機により行い、遺構確認作業は人力により行った。

遺構・遺物 1 T は 1.8 m × 7.0 m で設定した。遺構は検出されなかった。トレンチ中央部には害獣駆除に伴う掘削痕が確認でき、5 層（ソフトローム層）まで達していた。遺物は縄文土器 143.12 g が出土した。すべて縄文時代早期の繊維入無文土器であり、3 層からの出土である。1 は内外面に斜位の擦痕を残し、胎土に小礫を多く含む。2 は外面に縦位の擦痕を残す。2 T は 2.1 m × 6.1 m で設定した。遺構・遺物は検出されなかった。4 層（ソフトローム漸移層）までは、トレンチ北東部の半分以上が撓乱の影響を受けていた。また、両トレンチの南部には直径 5 m ほどの穴が 2 つあり、地権者に確認したところ、過去に植木業者が土地を活用していた際に、樹木を抜いた痕跡であるとのことであった。抜根痕は 5 層まで達しており、一部ハードロームブロックも確認できた。更に周辺には 2 つの樹木抜根痕以外にも、同様の理由によるものと推測される小さな窪みが複数確認できた。

3. まとめ

本調査は、二ノ山遺跡での初めての調査であるが、害獣駆除に伴う掘削や植木業に伴う抜根痕等の影響により、調査区内における遺構・遺物の密な分布は判断できなかった。しかし、縄文時代早期の遺物が出土したこと、本遺跡南東部に位置する兎谷台遺跡から同時期の遺構・遺物が検出されることから、蔵波川両岸、久保田川右岸同様に、久保田川左岸の台地縁辺部にも縄文時代早期の包含層が広がることが想定される。

参考文献

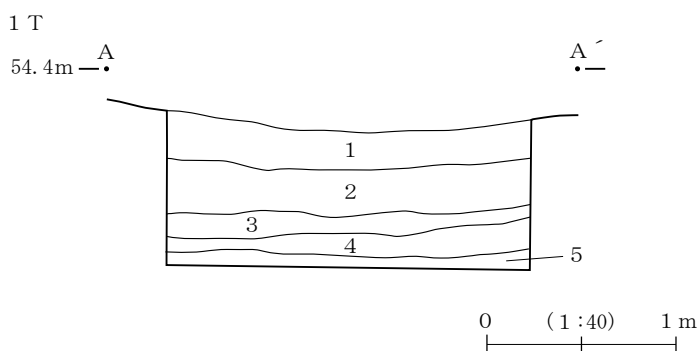
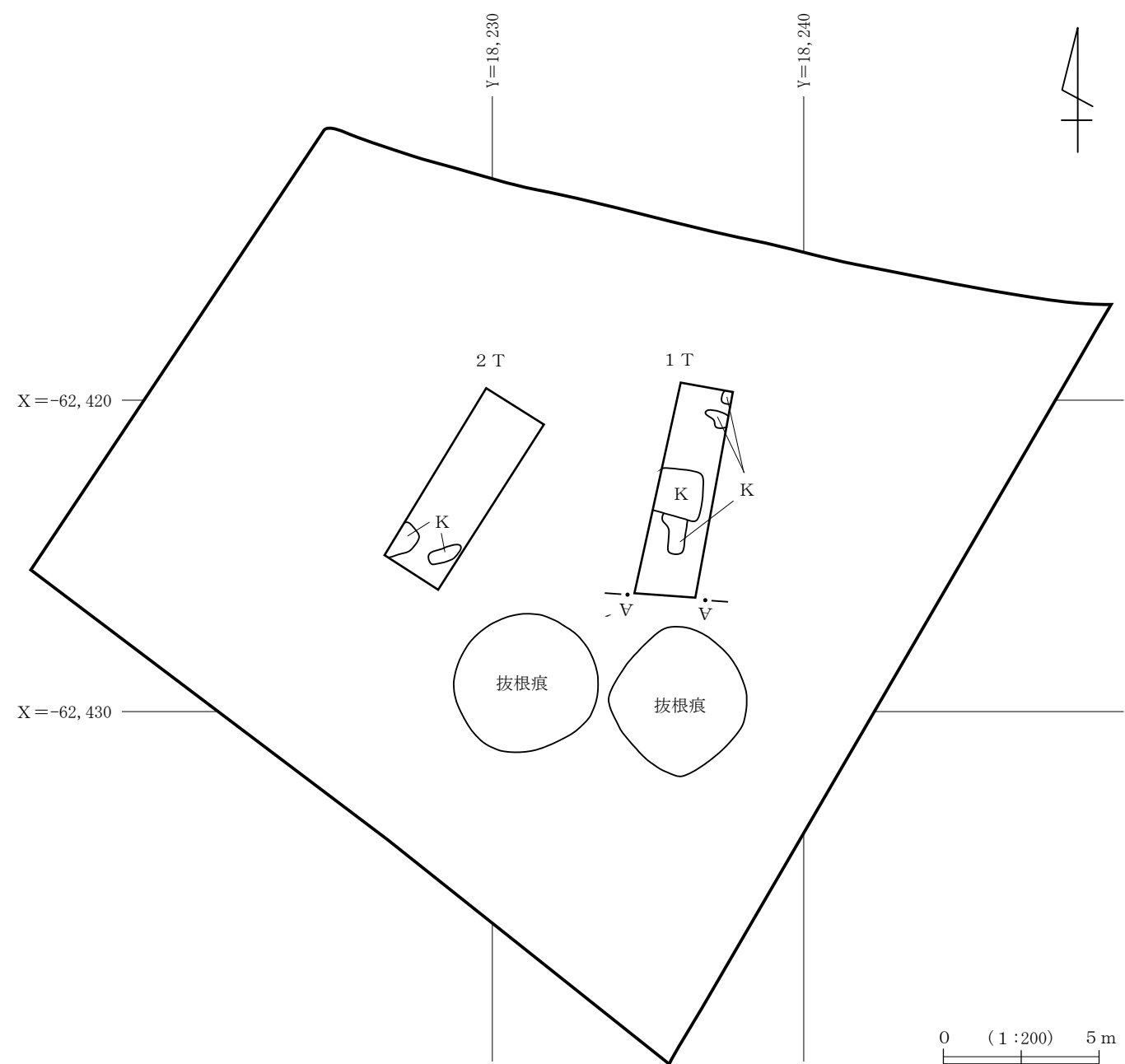
- 加藤正信他 1996 『袖ヶ浦市堂庭山B遺跡』（財）千葉県文化財センター
- 西原崇浩 2000 『正源戸B遺跡・子者清水遺跡』（財）君津郡市文化財センター
- 桐村久美子 2013 『豆作台遺跡Ⅲ』袖ヶ浦市教育委員会
- 大河原務他 2018 『平成 29 年度袖ヶ浦市内遺跡発掘調査報告書』袖ヶ浦市教育委員会



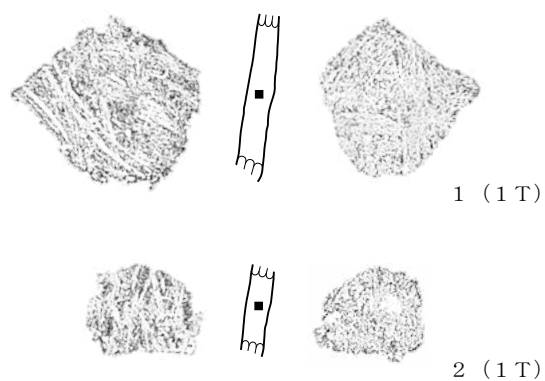
第12図 二ノ山遺跡周辺遺跡位置図 (1 : 25,000)



第13図 二ノ山遺跡調査区位置図 (1 : 2,500)



- | | | | | |
|---|----------------|----------|---------|-----------|
| 1 | 黒色土 (現表土) | | | |
| 2 | 暗褐色土 | しまり：普通 | 粘性：やや弱い | ローム粒子少量含む |
| 3 | 褐色土 | しまり：やや弱い | 粘性：やや強い | ローム粒子少量含む |
| 4 | 黒褐色土 | しまり：やや強い | 粘性：やや強い | ローム粒子多量含む |
| 5 | 黄褐色土 (ソフトローム層) | | | |



第 14 図 ニノ山遺跡遺構確認状況図、土層断面図、出土遺物実測図

写真図版



1. 調査前全景（南東→）



2. 4 T（南→）



3. 5 T（南→）



4. 11 T 方形周溝墓検出状況（北東→）



5. 13 T 方形周溝墓検出状況（南東→）



6. 17 T（南→）



7. 19 T（南→）



8. 20 T（南→）



1. 21 T (南→)



2. 29 T (東→)



3. 30 T (北→)



4. 30 T 遺物出土状況 (北東→)



5. 31 T (南→)



6. 32 T (南→)



7. 33 T (南→)



8. 作業風景 (北東→)



1. 2 T (南→)



2. 3 T (南→)



3. 5 T (南→)



4. 5 T 古墳周溝セクション (東→)



5. 6 T (南→)



6. 8 T (南→)



7. 13 T 古墳周溝検出状況 (北東→)



8. 14 T 土坑検出状況 (南東→)



1. 15 T (南→)



2. 17 T 道路状遺構・溝状遺構検出状況



3. 20 T 古墳周溝検出状況 (南東→)



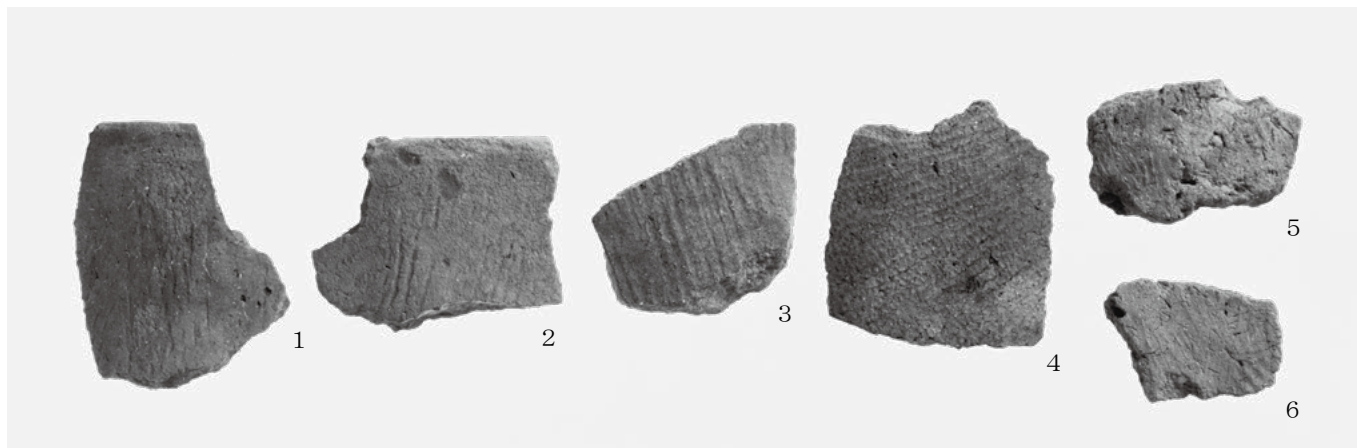
4. 25 T セクション (北東→)



5. 29 T (北→)



6. 31 T (北→)



7. 出土遺物



1. 調査前 (西→)



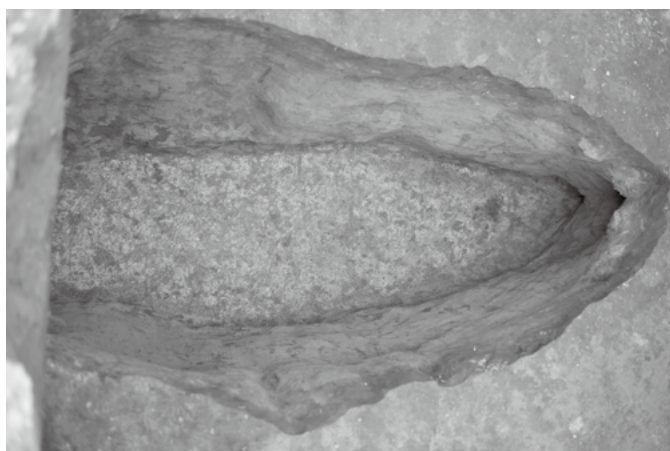
2. 遺構確認状況 (東→)



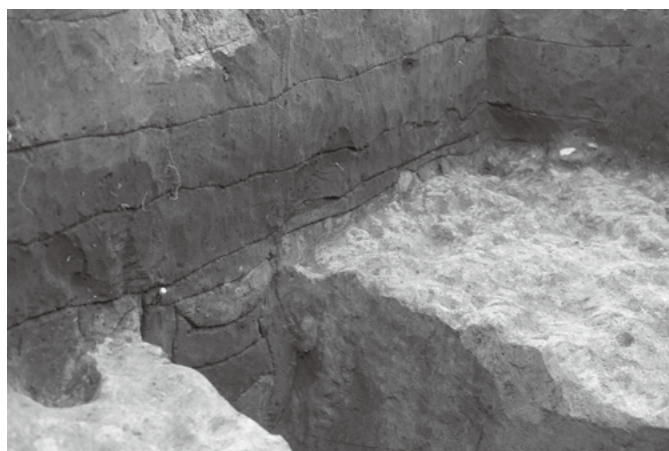
3. 遺構検出状況 (東→)



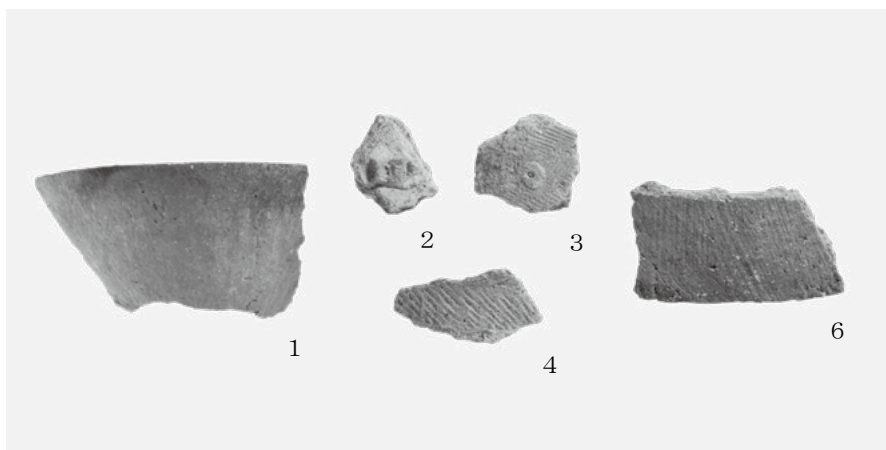
4. S K 004 完掘状況 (北西→)



5. S K 004 完掘状況 (東側真上→)



6. S I 022 掘方、S K 004 土層堆積状況 (北東→)



7. 出土遺物 (土器)



8. 出土遺物 (石器)



1. 堂庭山B遺跡（2）（3）1 T（南東→）



2. 堂庭山B遺跡（2）（3）6 T（南→）



3. 堂庭山B遺跡（2）（3）8 T（西→）



4. 堂庭山B遺跡（2）（3）10 T（西→）



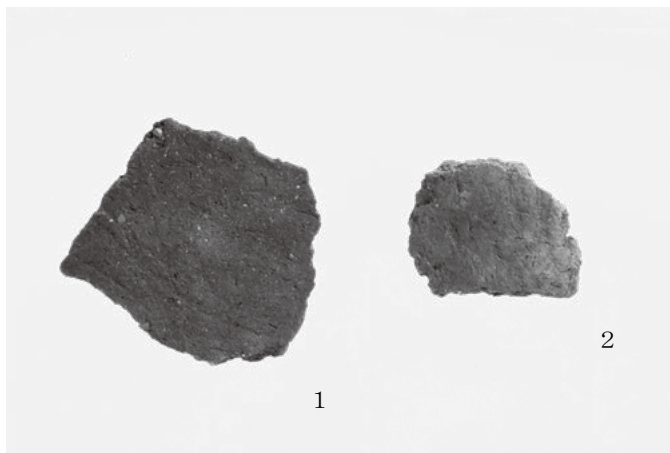
5. 二ノ山遺跡調査区全景（南→）



6. 二ノ山遺跡1 T（北→）



7. 二ノ山遺跡2 T（北東→）



8. 二ノ山遺跡出土遺物

報告書抄録

[illegible]

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積 m ²	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
どうにわやま 堂庭山B遺跡 第2次調査	ちばけんそでがうらし 千葉県袖ヶ浦市 くぼたあぎすだれ 久保田字須田連 1,435番地10	12229	SG127	35° 43' 99"	140° 02' 47"	20181022 ～ 20181102	24.4／ 962	確認調査
所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
堂庭山B遺跡	包蔵地 集落跡	縄文時代 古墳時代	なし		なし	調査区全域から良好なテフラ層を検出した。		
要約	遺構・遺物は検出されなかった。							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積 m ²	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
どうにわやま 堂庭山B遺跡 第3次調査	ちばけんそでがうらし 千葉県袖ヶ浦市 くぼたあぎすだれ 久保田字須田連 1,435番地11	12229	SG127	35° 43' 99"	140° 02' 49"	20181022 ～ 20181102	103.4／ 1,176	確認調査
所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
堂庭山B遺跡	包蔵地 集落跡	縄文時代 古墳時代	古墳時代土坑3基		古墳時代土師器	調査区全域から良好なテフラ層を検出した。		
要約	古墳時代の遺構・遺物を疎らに検出した。							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積 m ²	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
にのやま 二ノ山遺跡	ちばけんそでがうらし 千葉県袖ヶ浦市 くぼただいじゅく 久保田代宿 いりあいちあぎいちのやまだい 入会地字一ノ山台 3番2-2	12229	SG128	35° 43' 70"	140° 03' 41"	20181022 ～ 20181102	25.4／ 430	確認調査
所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
二ノ山遺跡	包蔵地	縄文時代	なし		縄文土器	調査区の広範囲がソフトローム漸移層 まで後世の攪乱の影響を受けている。		
要 約	縄文時代早期の包含層を検出した。							

2019 年 3 月 21 日 印刷

2019 年 3 月 27 日 発行

平成 30 年度
千葉県
袖ヶ浦市内遺跡発掘調査報告書

宮ノ後遺跡第 3 次調査 中六遺跡第 24 次調査 向山野遺跡第 10・11 次調査・真里場古墳群第 5・6 次調査
堂庭山 B 遺跡第 2 次調査 堂庭山 B 遺跡第 3 次調査 二ノ山遺跡

発行 袖ヶ浦市教育委員会
千葉県袖ヶ浦市坂戸市場 1 番地 1
電話 0438-62-2111
印刷 ワタナベメディアプロダクツ株式会社
千葉県木更津市潮見 4 丁目 14 番 4 号
電話 0438-36-5361